

NISHINOMIYA EBISU

西宮 えびす



新春号
平成14年

NISHINOMIYA EBISU

西宮 えびす

平成14年
新春号



編集室から

復興2回目を迎えました西宮まつりは好天にも恵まれ、陸渡御・船渡御ともに予定通りに斎行されました。今回は船渡御の途中「かざまつり」の古儀が約800年ぶりに再興されました。古儀を再興して原点にかえていくことで、神様の御神威もより大きく感じられたのではないのでしょうか。

十日えびすの「福男選び」に参加し続けている善斉さんと平尾さんから「福」を求めて走る胸に秘められた思いをお聞きしました。平尾さんは、一人でも多くの方々に福男選びに参加してもらい、その素晴らしさを知ってもらおうとインターネットのホームページも開設されておられます。

この福男のお二人に暖かい応援メッセージをお寄せ頂きました、日本を代表するスプリンター伊東浩司さんに厚く感謝致します。併わせて皆様の益々のご活躍をご祈念申し上げます。(英)

西宮えびす平成14年新春号(通巻第16号)
平成13年12月1日発行
発行/西宮神社
〒662-0974
兵庫県西宮市社家町1-17
TEL0798-33-0321
FAX0798-33-5355
編集/講務課広報
協力/甲南学園広報室、日本陸上競技連盟、
西宮市消防局
印刷/小西印刷所

お知らせ

年越しの大祓のご案内(31日午後4時)

知らず知らずのうち
に身についた厄を六月
と十二月の
末日に行な
われる大祓
式で祓い清め
ます。
十二月の
大祓式は、
「年越しの大祓」ともいわれ、清々しい
気持ちで新年を迎えるためのものです。
人形に氏名と年齢を記入され、所定の
作法で厄をお移し下さい。十二月三十
日までに入形をご返納頂ければ、大祓式
でお祓いをいたします。
お祓料を千円以上ご志納の方には、大
祓守を、五千円以上ご志納の方には、大
祓守に加えて平成十四年えびすテレホン
カードをおさがりとして授与致します。



年末年始の主な行事

- 12月** ◆ **巫女研修** 23日午後1時
初詣・十日えびすに笑顔で参拝者をお迎える
臨時奉仕巫女の研修会が行なわれます。
- ◆ **煤払祭** 27日午前10時
竹さおの先端に笹の葉をつけた巨大なほうきで
本殿の煤をお払いし、迎春準備を整えます。



巫女研修

- 1月** ◆ **歳旦祭・若水神事** 1日午前6時
新年を祝い、平和繁栄をお祈りします。灘の酒
造家の代表が宮水を神前にお供えます。
- ◆ **奉射事始祭** 2日午前10時
養目と呼ばれる鎗矢を空中に放った後、西宮弓
道連盟の会員が弓の引き始めを行います。



有馬温泉献湯式

- ◆ **百太夫神社祭** 5日午前11時
えびす信仰を全国に広めた傀儡師の祖神をお
慰めするお祭り。えびす舞が奉納されます。
- ◆ **大まぐろ奉納式** 8日午前9時
十日えびすを前に神戸の水産物卸売協同組
合から約300kgの本まぐろが奉納されます。



奉射事始祭

- ◆ **十日えびす** 9日~11日
●9日午後2時より有馬温泉献湯式
●10日午前6時より開門神事福男選び



十日えびす・吉兆店



十日えびす・招福大まぐろ

十日えびす

開門神事、 大いなる神の御心

一月十日午前六時表大門が開かれると、待ち構えた約千人の参拝者が本殿を目指して参道を駆け抜ける開門神事。本殿に早く到着した順に三番までが福男に選ばれます。

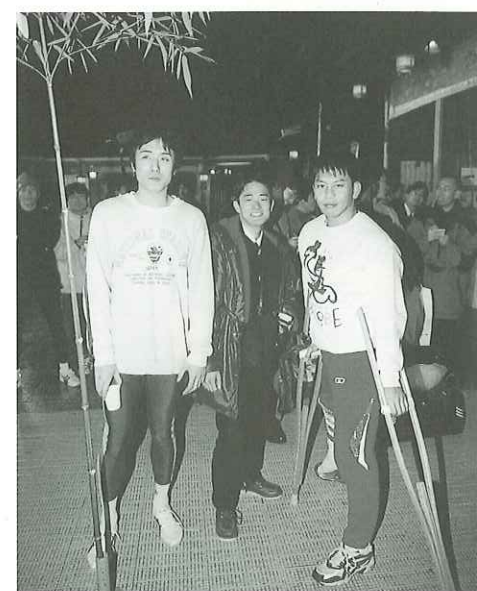


今回は、平成十三年に一番福に選ばれた善斉さんと福男選びに参加することを何よりも楽しみにされている平尾さんにお話を伺いました。

福男選びに参加されるようになったきっかけは？

善斉・高校三年生の時、陸上部の友達に誘われてから八年連続参加しています。いきなり二番福をもらいましたが、どうしても一番になりたくて翌年も参加。しかし連続して二番福でした。それから大阪体育大学の陸上部に所属していたこともあり、トレーニングを重ね陸上の大会などでもまずまずの成績を上げ、平成八年・九年と連続して一番福を授かりました。大学卒業後は、西宮市の消防署に勤務していますが前は二番福、今回は一番福でした。

平尾・大学の友人が善斉さんの後輩だったので、福男選びのことを聞き、大学二年生の時から参加しています。足には多少自信があったのですが、二年連続の二番福、善斉さんと同じようにどうしても一番福を獲得したくて一年中そのことばかり考えていました。平成十一年は、ベストポジションからのスタートもでき、二番手もかなり引き離してやっと一番福を手に入れられると思った瞬間、本殿前の坂でツルツと滑ってしまいました。どんなに悔しかったことか、その場へたり込んで大泣きしてしまいました。そればかりかその年の十二月二十四日の深夜、京都の大学から尼崎の自宅へ帰る途中、名神高速道路で



平成13年開門神事にて左より善斉・吉田・平尾

バイクを運転中に転倒、後続のトラックに轢かれてしまいました。轢かれた時は意識もありましたが、これでもう福男選びには出られないということが脳裏をかすめました。もちろん翌年の福男選びの時は、病院で過ごしました。その後約一年間入院生活を送り、今回走ることはできませんでしたが、あの開門の緊張感が来年へのやる気につながると思い、松葉杖を使って参加してしまいました。

福男選びの魅力とは？

善斉・一番になるまでは、という思いはありましたが、一番になつてからは、何度もやめようと思いましたが、十日えびすが近づいて来ると体が勝手に反応してしまいます。



善斉 健二さん
昭和50年9月生・西宮市出身
大阪体育大学から西宮市消防局勤務
現在、消防・救急隊員として活躍中。

しかし、福男になりたいというよりは、自分自身への挑戦という感じですか。もちろん職場の同僚や上司の励ましのおかげでもあります。前日の昼前から先輩が場所取りをしてくれ、署長以下みなのお励みがあったからこそ今回、消防吏員になつてからはじめて一番福が授かったのだと思います。そのおかげでか、いままでもケガも事故もなく過ごせていることに感謝しています。消防教室など、市民とのふれあいの場でもよく話題に上がり、地元で福男を守っている誇りも感じています。

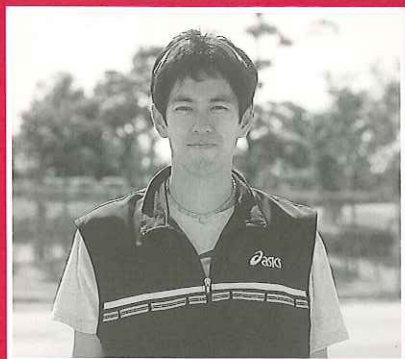
平尾・えびす様が人生の試練を与えてくださっているように思います。あの時転倒していませんが、今思うことはよくありますが、今の自分があつたのも全てが福男選びにつながっています。入院中は絶対不可能なのに、走ることはかなり考えて周囲の人達に迷惑をかけてきました。でもここまで回復することができたのは、日常生活の中で年に一回しかない福男選びのことが目標の一つになっていたからだと思います。福男選びは、参加することに意義があるのだということが、今回一番後から松葉杖で参加して、つくづく思いました。列の先頭で待っている時と同じかそれ以上の緊張を感じました。前回一番福をとった吉田光一郎君も愛知県から走るのではなく、僕をサポートしてくれるために来てくれました。人生は勝ち負けではない、素晴らしいものに触れると元

気になる。そのことを実感できるのが一月十日にやってきました。筆舌を尽くしても、この気持ちを伝えることは難しいと思います。できれば多くの方々に一度は参加して欲しい気持ちです。あの門が開く時、そこに全てを包みこんでくださる神様がいらつしやるのを体感できると思います。



平尾 亮さん
昭和51年4月生・尼崎市出身
仏教大学卒業
現在就職活動中。

『がんばれ福男!!』



伊東 浩司さん

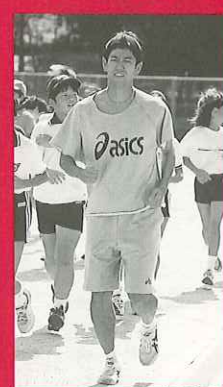
神戸市出身
甲南大学保健体育研究室専任講師
男子100m10秒00(日本記録・アジア記録保持者)
男子200m20秒16(日本記録保持者)
バルセロナ・アトランタ・シドニー五輪3大会に連続出場

私は中学時代から陸上競技を始め、地元西宮の報徳学園を経て、平成13年4月から甲南大学の専任講師となり、将来の夢に向かって挑戦している学生を指導しています。

競技を続け、また指導をして思うことは、競技の結果は決して運・不運によるものではなく、地道な努力の積み重ねだと……

善斉さんも平尾さんも大学陸上部に所属されていたとお伺いしています。

「福男」になられたのも、陸上部での「緊張をエネルギーに変えて走る」というハードな練習の賜物だと思います。お二人が「福男」になられたのは、たまたま「福」があったからではなく、その努力の過程に対して、えびす様から授けられたものではないでしょうか。



新年にあたり、今年も努力を積み重ねるたくさんの「福男」・「福女」が生まれる年となりますようお祈りいたします。

祭祀大図解

祈願祭へご祈禱

今回は皆様が個人、あるいは会社等団体でお受けになります祈願祭（ご祈禱）についての事柄を簡単にご紹介します。

【ご祈禱の流れ】



①申込
受付所にて用紙に住所氏名、祈願内容等を記入します。



②手水一A
祈禱を受ける準備として心身を清める為、先ず手を洗い、



②手水一B
次に口を濯ぎ、もう一度手を洗います。



②手水一C
最後に巫女より半紙を受け取り、手と口を拭きます。



③参入一A
社殿に参入する際、軽く一礼します。



③参入一B
神職が太鼓を鳴らします。



③参入一C
心静かに待ちます。



④修祓一A
祭員が祓詞を奏します。（起立、低頭します）



④修祓一B
祓串にてお祓いをします。（起立、低頭してうげます）



⑤献饌
巫女がご神前にお供えをします。



⑥祝詞奏上一A
齋主がご祈禱の祝詞を奏上します。



⑥祝詞奏上一B
齋主がご祈禱の祝詞を奏上します。



⑥祝詞奏上一C
その間起立、低頭します。



⑦福鈴
福鈴を着席のまま、低頭して受けます。



⑧拜礼一A
祭員先導のもと、ご神前に向い二礼



⑧拜礼一B
二拍手、一礼にて拜礼をします。



⑨撤饌
巫女がお供えを撤下します。



⑩直会
お下がりを受け取り、ご神酒にて直会をします。

ご祈禱は、人生の節目に伴って行われる場合と、様々な願いを叶える為に行われる場合とがあり、主に次のようなものが挙げられます。

- ◆人生儀礼
 - 初宮詣……嬰兒の誕生をご神前にて奉告し、すこやかな成長を祈願します。
 - 七五三詣……主に数え年3歳の男女児、5歳の男児、7歳の女児が11月15日頃ご神前にお参りして、健やかな成長を感謝し、ますますのご加護を祈願します。
 - 厄払い……一般的に数え年で男性25、42、61歳、女性19、33、37歳の厄年にあたる人がご神前にて、災厄が除かれるよう祈願をします。
- ◆諸祈願
 - 商売繁盛……家業や社業の繁盛を祈願します。
 - 家内安全……家と家族の平穏無事、隆昌繁栄を祈願します。
 - 大漁満足・海上安全……航海の無事と豊漁を祈願します。
 - 交通安全……陸上交通の安全を祈願し、お車をお祓いします。
 - 心願成就……様々な願い事（心願）が叶うよう祈願します。

【ご祈禱の種類】

【おさがり】



煎餅（お召し上がり下さい）

お箸（お使い下さい）

お札（清浄な場所にお祀り下さい）

お米（お召し上がり下さい）

えぼし
烏帽子
紙で作り黒漆で塗り固めてあります。初めは黒い絹で柔らかいものでした。

しゃく
笏
威儀をただし、また自己の姿勢を正す為のものです。貞丈雑記に「笏は我が身の歪みを直すべき為の定規なり」と、あり昔は象牙等も使われていましたが、現在では桜・樺等の木が用いられます。

【神職の衣装】



かりぎぬ
狩衣
「雁衣」「猿衣」とも書き狩猟のときに着用し、袖口にはくり紐が通っていてしぼることができ、「布衣（ほい）」とも言います。

あさぐつ
浅沓
桐材をくりぬいて作り漆で黒く塗ってあります。初めは皮製の黒漆塗りのものでした。

ご祈禱料
個人 5,000円以上
企業等団体 20,000円以上
社頭にてご参拝頂きます事が本義ではございますが、ご遠方の方やお体のご不自由な方は、郵便にてもお受け致します。
詳しくは、西宮神社祭祀課まで
電話 0798-33-0321

【誓文祭】

春のお祭と秋のお祭

古来日本人の信仰の基本的な姿として、春にこの一年のお願いごとをして秋には感謝のお祭をしていました。正月を新春といいますが、新しい年を迎えた早々に春のお祭をするという意味を表しています。これに対して秋には、誓文祭といいますが感謝のお祭を盛大に行っていました。現在でも百貨店とか昔ながらの商家では、せいもん払いとか、えびす講という催しを行っている所がありますがその名残です。



江戸時代の誓文祭（日本永代蔵より）

正月初詣、十日戎大祭にお願いなさいましたことに対する感謝の祭典といたしまして、当西宮神社におきまして、毎年十一月二十日午前十時より「誓文祭」を斎行致しておりますので是非ご参列下さい。

百太夫神社祭

百太夫神社祭

ひやくだゆうじんじやさい

一月五日午前十一時から西宮神社本殿西側に鎮座している百太夫神社のお祭りが行なわれます。この百太夫神社には、西宮の傀儡師(人形遣い)が祖神として崇めた百太夫神をお祀りしてあります。百太夫の「百」とは、多数という意味で、百太夫神社の神前に多くの人形が奉納されていたことから多くの人形を遣う神様ということでありましょう。

えびす様の信仰が今日のように全国へ広まっていたのは、室町時代以降西宮の散所(現在の西宮市産所町付近に住んでいた傀儡師がえびす様のご神徳を人形操りに託して広めていったからだといわれています。しかしながら、江戸時代後半になると人形遣い達は、次第に西宮から離れて、淡路の人形浄瑠璃や大阪の文楽へと変遷していきました。

西宮の散所にあつた百太夫神社も、天保十年(一八三九)一月五日に西宮神社境内へ移されたので、その日を記念して祭典が行なわれるようになりました。淡路島に伝わる伝承では、西宮の神主に道君房という老翁がいて、えびす様の神霊を慰撫するため、小さな人形を舞わしていたが、道君房の死後、海が荒れ、不漁が続いたため、百太夫藤原正清に勅命が下つて、道君房境内へ移されたので、その日を記念して祭典が行なわれるようになりました。淡路島に伝わる伝承では、西宮の神主に道君房という老翁がいて、えびす様の神霊を慰撫するため、小さな人形を舞わしていたが、道君房の死後、海が荒れ、不漁が続いたため、百太夫藤原正清に勅命が下つて、道君房境内へ移されたので、その日を記念して祭典が行なわれるようになりました。



江戸中期版刻の百太夫神像

の人形をつくり、これを舞わして神慮を慰めたところ、波風が静まり豊漁がもたらされました。そこで百太夫は諸国の神々を慰める勅許をうけ、人形を舞わしながら国々を巡り、ついに淡路で亡くなりました。その彼の技芸を伝えたのが、淡路の人形浄瑠璃の起源で、道君房が訛つて「でくのぼう」となり人形のことを「木偶」というようになったといえます。

この有名な伝説は、淡路の人形浄瑠璃の起源を権威づけるためにつくられたものでありますが、西宮の傀儡師が淡路の人形浄瑠璃の有力な源流をなしていたことの端を物語るものです。

散所とは、平安時代以降、水陸交通の要地や有力な社寺の付近におかれ、そこに住む人々は、領主や社寺に對して雑役に奉仕するかわりに免税などの特権を与えられていました。その中から傀儡師として人形舞などの芸能を生業とする者が現われ、特に西宮の傀儡師がえびす信仰と結びついて有名になっていきました。平安時代に大江匡房が著した「傀儡子記」によると、彼らは自由奔放な生活を樂しみ、夜は彼らの守り神である百神を祭つて歌舞し、

神助を祈願したとあります。西宮の散所の人々も西宮神社に奉仕するとともに、水陸交通の要地でもあったので、室町時代から飛脚など交通業者としても活躍、そのネットワークを利用して全国へと活路を開いていったのではないのでしょうか。

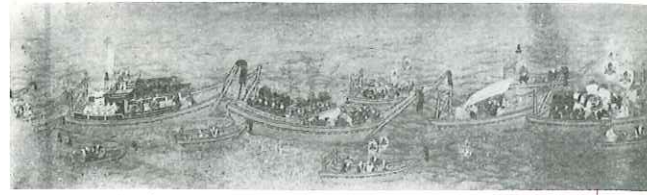
淡路島から「えびす舞い」の奉納

淡路の市村というところは、俗に人形村とも呼ばれるほど、人形浄瑠璃の盛んなところでした。農閑期には村人は、一座を組織して島のあちこちを打つて廻っていました。かつてはその座が三十二人もあったといわれます。大正四年生まれの居内春さんは市村で鉄工所を営む傍ら人形遣いの不動安七さんからえびす舞いを習得、奥さんの芳美さんお手製の人形を遣つて毎年一月の十日えびすには刈屋のえびす神社で、十一月には三原町の文化祭でえびす舞いを上演されておられました。西宮神社へも十五年程前から五月五日の百太夫神社祭で、えびす舞いを奉納上演されておられました。



徳島から「阿波木偶箱廻し」の奉納

箱廻しとは、木偶人形を二つの木箱に詰めこんで、荷に担いで街角などの大道や慶事の場に招かれて木偶の操作や口上を一人で行うのが特徴です。また数人の芸人が人形座を組み、全国へ人形文化を伝播していきました。その中に、正月の神事や田の神事として「御祝儀三番叟・えびす」があります。この箱廻しも戦後の生活様式の変化などで昭和四十年代には姿を消していったといわれています。辻本英さんは、平成七年に「箱廻しを復活する会」を結成し、古老からの聞き取りなどを通して、箱廻し技術の習得、伝承活動を続けておられます。その一環として平成十二年から百太夫神社祭で箱廻しを奉納上演されておられます。



神幸海上図 (西宮大神本紀より)

9月23日 潮風に華やか平安絵巻 古儀「かざまつり」復興

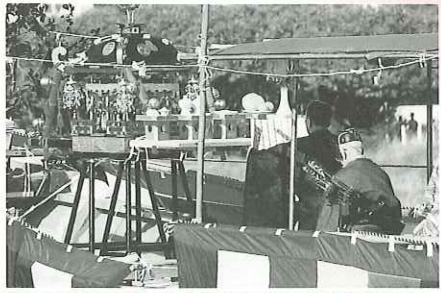
九月二十二日の例祭に引き続き、翌日みこし渡御祭が斎行されました。午前中は、震災以来途絶えていた陸渡御行列が西宮中央商店街を巡行。午後は、みこしを乗せた御座船を中心に童男・八乙女、人などを乗せた供奉船、大手前大学や夙川学院短期大学などの学生が飾り付けたクルーザーやヨットなど計十五隻が新西宮ヨットハーバーを出港、西宮浜の人工島を約一時間半かけて周りました。

西宮神社のみこしが神戸市兵庫区の和田岬へ神幸していたことは治承四年(一一八〇)に中山忠親が記した日記「山槐記(さんかいき)」や国宝「遍上人絵伝」などからも伺うことができます。その壮麗な祭礼の様子は、往路は幾艘もの船を旗や幕で飾り、海上所狭しと連ね和岬まで海上渡御を行い、和岬の仮宮では花を飾り鼓笛を鳴らして舞などを奉納した後、帰路は馬を連ね陸路六里(約二四km)をその日の内に帰つて来ることを産宮参りといつていたようです。この神幸は当社の神事の中で最も賑やかな祭典として受け継がれてきました。織田信長による社領没収により廃絶、昨年四百年ぶりに復興されました。



波静かな海原を進む船渡御行列

今年も復興されました。この行事は、平安時代の後期に源俊頼の「散木赤歌集(さんぼくき)かしゅう」の中に次のように詠まれています。



御前浜沖に停泊して「かざまつり」の祝詞を奉上

途中、御前浜の沖で御座船が供奉船が北に船首を向けて停泊、先被船よりお祓いをした後、御坐船の鉦神に献

にしの宮に神民の船にほこさかきしてぬせれうという物とりて風いのりするかたかけるよよめる

「柴小舟 真帆にかきなせ にしの宮人 かざまつりしつ」



四方の海を詠う八乙女

7月16日 「八雲琴」奉納演奏

中山琴主が江戸時代末期に出雲大社の神意を得て考案したという八雲琴の奉納演奏が行なわれました。奉納されたのは、西宮市にお住まいの国際文化交流会「ヤクモソサエティ」の窪田英樹さん、岩見利子さん、窪田京子さんと「菅搔」五十鈴川の二曲を御神前で爪弾かれました。

八雲琴の奉納演奏は、当社の文久四年(一八六四)八月の社務日誌にも次のような記録が残されています。

- 廿九日 於御神前 出雲国入
- 天日隅宮 律字官 元祖中山彈正太夫
- 奉納演奏 八雲琴、五十鈴川
- 目次
- 八雲曲 桔野曲 菅搔 五十鈴川 今様